様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ００５０９

研究課題名（和文）オーバーラップする異国趣味・郷土主義ー東アジアモダニズム研究の基盤構築に向けて

研究課題名（英文）Overlap between Exoticism and Localism: Toward the Construction of a Research Platoform for East Asian Modernism Studies

研究代表者
波潟　剛（NAMIGATA, Tsuyoshi）

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：１０４３２８８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本課題の目的は、東アジア地域におけるモダニズム研究の基盤構築に向けた学術的実践及び研究者のネットワーク作りを推進することにあった。学術的実践としては、異国趣味と郷土主義に注目し、モダニズムと異国趣味、モダニズムと郷土主義という観点から、国際学会等で４本発表を行い、そのなかから論文として１本公表することができた。また、ネットワーク作りに関しては、2019年7月に九州大学で国際ワークショップを開催し、日本国内、北米、東アジア各地から計15名のモダニズム研究者を招聘し、集中的に研究の現状に関する議論を行った。そこでの成果を元にして、東アジア・モダニズム研究の情報共有サイトを開設した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
モダニズムが世界同時的現象であるという認識はあるものの、東アジアにおける実情はまだ明らかになっていない部分がある。本課題の成果は、今後、世界文学史、東アジア文学史における「昭和モダン」の記述を可能とし、一国文学史、各国文学史に対する新たな問題提起をしたといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project was to promote academic practice and make a research platform in East Asian Modernism studies. As for academic practice, I made four presentations at conferences and published one paper from among them,especially focusing on exoticism and locality. As for networking, I held an international workshop at Kyushu University in July 2019, inviting a total of 15 modernism researchers from Japan, North America, and East Asia for intensive discussions on the current state of research. Based on the results of this workshop, I have established an information-sharing website for East Asian Modernism research.

研究分野：比較文学

キーワード：モダニズム　異国趣味　郷土主義　東アジア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## １．研究開始当初の背景

2014 年度から 16 年度まで取り組んだ基盤研究 C「昭和モダンの展開/転回―1930-40 年代東アジアにおける文化翻訳のポリティクス」において、韓国、台湾などのモダニズム資料を調査するなかで、1930 年代後半にいたって「郷土主義」の問題が浮上する点で一致するということが分かった。これは日本において「日本的なもの」が議論されていたことと類似する点は理解できたが、はたして、日本における「郷土主義」と、東アジアにおける「郷土主義」はどのような関係にあり、また、モダニズムからなぜ移行するのか十分な検討をできずに研究期間が終了した。引き続き検討すべき重要な課題であると考え、今回の申請に至った。

## ２．研究の目的

本研究がまず課題とするのは、①東アジアのなかの昭和モダンに関する総合的分析である。昭和文学史、昭和文化史研究においても、これまで上海や南洋に特化したかたちで、異国趣味、エキゾティシズムの問題が議論されてきた。それに対して本研究が取り組もうとするのは、(a)昭和モダンを異国趣味の錯綜、オーバーラップとして捉え、アメリカ、西欧への憧れと、上海、ハルビン、ソウル、台北、さらには南洋を含んだ植民地への美学的視線が入り混じる、重層的な場として分析を試みる。そのうえで、(b)さまざまな次元で想像された「異郷」の美学が、1930 年代後半以降、国内の「郷土」へと対象を替えていく際のすり合わせや、重なり合いという意味でのオーバーラップが生じる様相を検証する。そして、(c)知の集積地、帝国主義の中心地としての日本を経由して、各地域で展開された東アジアのモダニズムにみる、文化のオーバーラップと変容、日本と同様に「異郷」から「郷土」へと変容した美学的視線にみる地域間の差異を総合的に分析することを契機に、種々の東アジア的文脈をふまえて昭和モダンの文学・文化を位置づけなおすというのが、第一の目的になる。

また、韓国、中国、台湾等で、モダニズム研究者との学術交流を行ってきたネットワークをさらに展開し、個々の研究実績を共有することに加えて、各地域での最新研究動向と課題を共有する場を設けることで、東アジア・モダニズムを同じ土台で議論・研究できるように組織化する。アメリカを本拠地としてモダニズムに特化した学会も存在するが、東アジアにおいて、モダニズムに特化した研究の場はまだ組織されていない。しかし、研究の現状を鑑みれば、今こそそうした場を必要とする段階にあり、②国際ワークショップを通じて、プラットホーム作りに必要な課題、情報などについて議論し、国際共同研究の基盤を形成することも、重要な目的だといえる。

## ３．研究の方法

本研究は、①昭和モダンを東アジアという歴史的、地理的文脈において位置づけなおす、と同時に、②東アジア・モダニズムに関する国際共同研究のプラットホームを構築することを主眼とした。そのため、①については、戦時期の植民地文学における異国趣味と「郷土」の問題に関する資料調査と分析を行った。そのうえで、②のワークショップを通して、それぞれの課題について、韓国、台湾、中国等での研究状況や比較検討を加えることでさらに総合的な分析を進めるとともに、実際のネットワーク作りを進めた。

## ４．研究成果

（1）2018 年度

2018 年 10 月に開催された第６回東アジアと同時代日本文学フォーラムにおいて発表を行った（於：復旦大学）。全体テーマは「「レンタル」と近現代東アジア文化」であり、上海租借地との関わりを想定していたため、1940 年代前半に２度上海に滞在した阿部知二を対象にして、彼のモダニズム小説にみられる異国趣味と、その後の北京、南洋、上海滞在での経験をふまえて執筆された小説群との関係について議論を行った（発表タイトル「阿部知二とエキゾティシズム―アフリカ、中国、南洋」）。また、上海で開催されたこの研究会をはじめ、日本国内での学会、韓国の研究者との学術交流、台湾訪問時における現地研究者との情報交換、アメリカにおける学会発表と議論などを通じて、東アジアモダニズム研究の課題を分析しつつ、2019 年度以降開催予定の研究会について、個々に具体的な相談、調整を行うことが主となった。

（2）2019 年度

東アジアのモダニズムに関する研究ネットワークを構築するため、2019 年 7 月に九州大学において国際ワークショップを開催した。日本国内をはじめ、韓国、中国、台湾、アメリカ、カナダから、15 名のモダニズム研究者を招聘し、それぞれの地域やジャンル（詩、小説、写真、映画など）に関する研究動向を相互に紹介してもらい、今後の課題や問題点を共有する貴重な機会となった。日本のモダニズムといっても、ジャンルによってどのような研究上の課題があるのか、日本国内と海外での研究にはどのような関心の違いがあるのかといった点や、各国文学としてではなく、東アジアという広い枠組みでモダニズムを考える必要性等を改めて認識できた。さらには狭義のモダニズムが形成された 1920 年代から 1930 年代の歴史的文脈を重視しつつも、現在進行しているグローバルな次元のモダニズム研究への理解も必要になるといった点を集中的に議論できた。この他に、2019 年 8 月には、マカオ大学で開催された国際比較文学会（ICLA）においてパネルの司会進行と発表を行った。林芙美子の『放浪記』に関する改稿の問題を、翻案という視点でとらえ発表を行い、戦後におけるモダニズムの連続性や断続性について議論することができた。

（3）2020 年度

学術論文を１本発表した（”Philosophy of "wildness"(yasei): Fumiko Hayashi's Ukigumo and the postwar version of Horoki,”*Bulletin of the Graduate School of Integrated Sciences for Global Society*,27-2,2021,pp.22-38）。この論文では、近代日本文学における女流作家の代表的人物の一人である林芙美子（1903－1951）に関して、晩年となる戦後の創作活動に注目し、長編小説『浮雲』と、第三部を加筆して出版された戦後版『放浪記』との関係を、「野性」という共通点に即して分析した。『浮雲』のエピグラフに掲載されるシェストフの文章は、新プラトン主義の哲学者プロティノスに関する論考の一部であり、シェストフが指摘するプロティノスの「理性」批判は、小説『浮雲』において、主に「野性」的な人物「ゆき子」を通して描かれている。この「野性」は『放浪記』にも通じる点があり、第三部で、よりアナーキーな側面を強調した姿勢と重なる。戦後になって、自己注釈的に第三部が追加された戦後版『放浪記』と、戦前における徴用体験を自己省察的に描いた『浮雲』が、「野性」という特性によって結びつき、彼女の文学的評価を好転させる要因の一つとなり、また、モダニストとしての再評価にもつながったという点を明らかにした。本課題が研究の軸としている異国趣味と郷土主義に関して、前者における問題を具体的に検討することができた。

（4）2021 年度

研究計画の中で着手が遅れていた課題、およびネットワーク構築の作業に取り組んだ。研究面では、「異国趣味」とともに課題の軸としていた、モダニズムと「郷土主義」との関係について学術発表を行った。2021 年 8 月にオンラインで開催された 16th International Conference of the European Association of Japanese Studies では、”Primitive Voices: Modernism, Regionalism, and Exoticism of Japanese Literature in the 1930s”というタイトルで発表を行い、 1930 年代半ばの日本における文学界では、「地方」に注目が集まる一方で、そこから帝国の周縁である「外地」へと関心を向けるモダニストと、日本の理想的な「故郷」を見いだすモダニストの双方が存在したことを明らかにした。また、ネットワーク構築に関しては、2019 年 7 月に九州大学で開催したワークショップの報告者にも協力を仰ぎながら、「〈東アジア・モダニズム〉研究プロジェクト」の web サイトを開設し、ワークショップの記録とともに、モダニズム研究の基本文献や関連リンク情報を多言語で掲載した。さらに、研究課題終了後の展開を見据えて、2022 年 3 月にグラスゴー大学と九州大学の共同イベントに参加し、日本のモダニズムに関する発表を行った（”Routes to the West: Cultural Translation in Japanese Modernist Literature around 1924”）。以上のように、本研究課題による知見の蓄積（モダニズムと「異国趣味」、そして、「郷土主義」との関係）とともに、 web サイトを通した情報共有・提供と、国際的な人的ネットワークの広がりを元にして、今後、グローバルに展開するモダニズム研究との接点を深め、〈東アジア・モダニズム〉の研究を進展させたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Tsuyoshi NAMIGATA | ４．巻<br>27-2 |
| ２．論文標題<br>Philosophy of "wildness"(yasei): Fumiko Hayashi's Ukigumo and the postwar version of Horoki | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>Bulletin of the Graduate School of Integrated Sciences for Global Society | ６．最初と最後の頁<br>22-38 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　3件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tsuyoshi Namigata |
| ２．発表標題<br>The Memories of Empire, and the Aesthetics of Post-War Japan: The Strategies of Adaptation in Fumiko Hayashi's Horoki |
| ３．学会等名<br>Congress of International Comparative Literature Association（国際学会） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>波潟剛 |
| ２．発表標題<br>阿部知二とエキゾティシズムーアフリカ、中国、南洋 |
| ３．学会等名<br>第六回東アジアと同時代日本語文学フォーラム（国際学会） |
| ４．発表年<br>2018年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Tsuyoshi Namigata |
| ２．発表標題<br>Primitive Voices: Modernism, Regionalism, and Exoticism of Japanese Literature in the 1930s |
| ３．学会等名<br>EAJS2021: 16th International Conference of the European Association of Japanese Studies（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| 2022年3月に以下の発表を行った。<br><br>"Routes to the West: Cultural Translation in Japanese Modernist Literature around 1924",Islands in the Global Age: Identification, Estrangement and Renewal in the East-West Dialogue:GLASGOW-KYUSHU INTERNATIONAL CONFERENCE<br><br>以下のwebサイトを開設した。<br>East Asian Modernism Studies Project<br>https://eamsp.net/ |

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

| 国際研究集会 | 開催年 |
|---|---|
| 東アジアモダニズム研究会：ワークショップ@九州大学2019（East Asian Modernism Studies Project Workshop at Kyushu University 2019） | 2019年～2019年 |

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|